

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1070501083
法人名	NPO法人ひまわり
事業所名	グループホームすまいる
所在地 (電話番号)	群馬県 太田市 飯田町 631 (電 話) 0276-46-5210
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県 前橋市 大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成21年11月13日

【情報提供票より】(21年 10月 21日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤 2人, 非常勤 7人, 常勤換算 6.7人	

(2)建物概要

建物形態	併設/ <input checked="" type="radio"/> 単独	新築/ <input checked="" type="radio"/> 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	<input type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(100000 円)	有りの場合 償却の有無	有/ <input checked="" type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	450 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(10月21日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4			
要介護5	0 名	要支援2			
年齢	平均 75.4 歳	最低 62 歳	最高 91 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	竹内医院 永倉歯科医院 介護老人保険施設藤阿久光荘
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

街の中にあり、近隣とも交流がし易く、事業所として立地条件が整っている。利用者は公民館を借りて運動会を行ったり、市庁舎でのグループホーム作品展示会などで公の施設の利用が実現している。利用者の日常行動などで利用者同士の支援関係ができてきている事などでも介護の適切さがうかがえる。個人の生活に重きをおいたケアがなされ、毎日の生活が受身ではなく、生活者として役割などがあり自主的な一日を過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画の見直しではモニタリングが毎月行われ、改善されている。食事を楽しむ支援では、外部評価結果後職員間で話し合われたが、現状のままとなっている。入浴を楽しむ支援でも職員間で話し合いがなされたが現状のままとなっている。鍵を掛けないケアでは、家族からの要望もあり話し合いはされていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員から意見を吸い上げ管理者が取りまとめ記入している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	不定期に開催されている。家族、理事長、職員、区長、市職員が参加している。施設側からは現状の報告などがなされている。開催案内は全家族に通知している。夏祭りでは家族に協力をお願いし、一緒に参加してもらった。
重点項目④	玄関には苦情箱が設置されている。また管理者は家族が意見等言いやすい雰囲気を作っている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	管理者は地域との付き合いに気を配っている。運営推進会議をきっかけに地域との関係を構築しようとしている。地域の協力により公民館を利用しての運動会や隣家の人からマラソン大会応援時に甘酒を振舞ってもらっている。また事業所からは地域への還元として職員が育成会の廃品回収などに協力をしている。利用者の作品の展示が市役所にて行われた。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は職員全員で考え話し合い作られている。「住み慣れた地域で穏やかに暮らせる支援」が謳われている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は現場でその都度職員に対して理念を話している。また職員から介護について相談を受けたときなど理念を元に指導している。理念は職員会議で職員に共有されている。		
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は地域との関係を大切にしている。散歩時には常に声掛けを積極的に行い関係を築いている。公民館を借りて運動会を行うなど地域との関係が深くなっている。育成会の廃品回収にも協力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を理解している。今回は職員全員の意見を聞き管理者が取りまとめ作成した。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	9月、12月、H21年5月、8月に開催している。家族、代表者、区長、市職員等が参加している。また全家族に通知している。区長より市役所に利用者の展示をしてみたらと提案があり実現している。事業所から利用者の作品展に足を運んでほしいと家族にお願いした。	○	管理者・職員は地域との交流を大切にしたいと考えている。運営推進会議は定期的に2ヶ月に一度開催できるように努力してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員とは運営推進会議での交流の他、介護保険更新申請手続きなどでケアマネジャーが市役所に出向き、話し合いを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	体調の変化等は家族に連絡し、家族からの指示も聞いている。預かり金の報告は月に一度請求書と一緒に郵送している。家族の面会時には近況報告等を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は家族から出た意見に対しては迅速に対応するために話し合いを行い、改善に向けて方向性を示す努力をしている。また話し易い雰囲気を作り意見を出やすくしている。苦情箱が設置されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にしたいと努力している。今年度の入れ替えは無かったが、新入職員には経験者が付いて日勤から教えている。夜勤は1ヶ月くらい2人で行い管理者が見極めてから一人立ちしてもらっている。個人の特徴を捉えてケアに当たるよう指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基本的には順番に研修に行っている。管理者が選任し代表者に許可をもらい研修している。研修は会議で報告をしている。	○	研修会に参加する事で日頃のサービスの確認が出来、職員の自信にもつながっていくので、職員のやる気と代表者の支援により、研修会参加の機会をより多く持つことを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に加入している。グループホーム大会に参加している。またインフルエンザ研修、交換研修にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院からの紹介の場合はホームから病院に出向き、本人に会って話をしたり、また在宅の場合には家族や本人に来てもらい施設を見学し雰囲気を味わってもらっている。家族が宿泊しながら入所できるなど工夫されている。職員は言葉かけを多くし、早く馴染めるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は個人と個人の会話などを通してその人の経験から人生の処世術などを教えてもらったりしている。また昔の暮らしの中から行事食や料理の付けあわせなど教えてもらい支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中からその人の意向の確認を行っている。会話の無い人にはその人の表情や行動などから推し量っている。家族からも面会時に過去の生活の情報を聞いている。		
○チームでつくる利用者本位の介護計画					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員には担当制がとられている。担当者は利用者の意向やケアの方針をケアマネジャーと話し合い、職員会議でも話し合い介護計画を作成している。		
○現状に即した介護計画の見直し					
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しと随時見直しがされている。またモニタリングは毎月行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	趣味の見物、理美容院の送迎、買い物支援などが行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入所前からのかかりつけ医となっている。また家族との話し合いで協力病院に変更も出来る。急変時には協力病院の受診が出来る。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人の方針があり重度化したときには家族と話し合い介護老人福祉施設への申し込みをしてもらっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室への入室時には本人の了解を得るなど注意をしている。また排泄時の声掛けなどにも気を配っている。書類は事務所に保管されている。個人情報などは管理者が職員に教育している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は出来ているが一人ひとりのペースに配慮がされている。嗜好品も禁止ではなく支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者から希望のメニューを会話などを通して聞き取っている。希望のメニューは献立に取り入れられている。外食も年に4～5回出掛けている。誕生会には誕生者の好きなメニューが用意されている。職員と一緒に食べてはいない。	○	利用者と同じメニューの食事をする事で味の濃さ、薄さ、硬さ、など会話ができる。職員の休憩時間や負担金などの事情もあると思うが、同じ食事を一緒に取れるよう検討して欲しい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月、火、木、金曜日が入浴日となっている。利用者には週2回の入浴が支援されている。入浴拒否があった時は日をずらして支援されている。シャワー浴は随時利用ができる。	○	曜日や時間に制限されない、利用者の希望に応じた入浴の支援をお願いしたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割は利用者の状態に応じた分担が割り当てられ、お茶いれ、下膳、掃除、洗濯干し、洗濯たみなどがある。楽しみごとは絵描き、書道、縫い物、工作、植木の水遣りなどがあり、気晴らしの支援にはドライブ、外食、散歩、運動公園、花見(時期)などがある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、元旦マラソンの応援、ぶどうの摘み取り、草むしりなどで天気の良い日は外の空気を味わっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は時間を決め施錠されている。家族からも国道に面しているので施錠して欲しいと意見が出ている。ホームの近くが歓楽街なので不審者予防のためにも施錠をしている。	○	立地条件等は理解できるが、今後も利用者の立場で話し合いを行い、開錠に向けての検討をお願いしたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練を行っている。1回は消防署立会いで行われている。近隣にも声かけを行い参加を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量(主食と副食)の記録はされている。水分量については把握されているが記録はされていない。	○	利用者にとって水分量は健康状態の把握につながるの で、水分量記録の努力をお願いしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には鉢植えの花が飾られている。また窓からフェンスに絡まったぶどうの木や裏の家の空き地などが見える。テーブル、椅子、テレビがあり、ホールから見えるキッチンには下膳等の役割の参加がし易く出来ている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は騒音・温度等調節されている。ベッドは施設からの貸し出しとなっている。なじみの人形・筆筒・テレビが持ち込まれ、作品が飾られている。		